

TOKO

(わらじの会・どの子ども地域の学校へ！公立高校へ！東部地区懇談会)

NO. 155

〒344-0021 埼玉県春日部市大場690-3 谷中耳鼻科内



TEL048-737-1489 Fax048-736-7192 e-mail : waraji@muf.biglobe.ne.jp

わらじの会HP : <http://warajinokai.at.infoseek.co.jp/>

共に学び・共に働くブログ : <http://yellow-room.at.webry.info/>

障害のある人もない人も地域で共に！ 2010年もよろしくお願ひします。



写真は2009年12月23日、アクシス春日部で開催された、わらじの会「みんな一緒にのクリスマス」。TOKO号外のご案内が直前になってしまったにもかかわらず、子どもの参加が久しぶりに多く、にぎやかで楽しい一日をすごしました。さまざまな障害のある人たちや子どもたちが入り乱れたバンド演奏は、まさに圧巻でした。(ブログ <http://yellow-room.at.webry.info/>でも詳しく報告しています)

TOKO NO. 155 共に学び育つためのTOKO就学相談ファイル 2 TOKO2009年ふみあと 3 共に学び・共に生きることの大切さを実感 原田真弓 4 県立高校統廃合への意見書 8 クラスメートが涉君との遊びを人権作文に 9 障害ある子の就学考える(朝日新聞) 10 春の芽吹きを待つためにいま地域という土を耕しておこう！

TOKO が初めてお手元に届いた方へ

TOKO を初めて目にした方へ

子ども達を分け隔てなく育てるために

どの子どもと一緒に地域の学校へ通えるように

地域へ、行政へ、働きかけている会です

ぜひ、一度のぞきにきて下さい 待っています

TOKOホットライン 白倉 048-752-7351

中山 090-2202-5271

山下 048-737-1489



共に学び育つためのTOKO就学相談ファイル

各地から悩み・体験もちよりました！(2009.10.30 相談会)

年齢	在籍	障害	悩み・現状など
4歳	保育所	広汎性発達障害	相談に行き特別支援学校等の見学を勧められて行ってきた。再来年の就学に向け学びたい
5歳	幼稚園	広汎性発達障害？	グレーゾーン。子どもが一人なので不安。どう説明したら。再来年の就学に向け学びたい
5歳	幼稚園	ダウン症	幼稚園では、加配が付けられないからダメと言われ、付いたら加配の先生が休みの日は来ないと言われてたりしたこともあった。近所の友達と一緒に学ばせたい。
5歳	幼稚園	脳性マヒ・発達遅滞	相談に行ったら養護学校がいいと言われ手続きしたが、選ぶ権利もなく、周りはどうなのか？大人になった時のことも気になる。
6歳	幼稚園	広汎性発達障害	巡回就学相談では教委と学校に話しに行くよう言われたが、前もって話す必要はないのではという気持ちになっている。下の子も障害があるが、やはり共に学ばせたいと考えている。
6歳	保育所	肢体不自由・知的障害	普通学級に行く時の補助員をお願いするつもりで就学相談に行ったが、希望を聞かれず、支援学級はいいところだから見に行きなさいと言われる。
8歳	小学校2年普通学級	軽度発達障害？	年長の時にTOKOに参加して共感し、普通学級へ。先生や友達も味方に付けて楽しく学校に。今後のことについては先輩の話を知りたい。
9歳	小学校3年特別支援学級	自閉症	学区外の特別支援学級に通っているが、毎日車で送り迎え。地域の子どもと馴染めなくなったり、旗振り当番もはずされ、地域から疎遠になったのが気がかり。
9歳	小学校3年特別支援学級	自閉症	姉と一緒に学校へと思ったが、ついていけなくなった子がいると言われ、学区外の特別支援学級へ。同じ通学班で通わせたいとは常に思っているが、社会に一人では無力。今でも悩んでいる。
9歳	小学校3年特別支援学級	広汎性発達障害	歩いてゆけるところに特別支援学級があったので、特に悩まず入れた。本音を言えば、お兄ちゃんと兄弟別々になったのが残念。
10歳	小学校4年特別支援学級	自閉症	就学で悩んでいた時TOKOと出会い普通学級に入れたが、付き添いが条件で毎日支援員に説得され2年から特別支援学級へ。地域と断絶するので子供会や兄の少年野球について行くなど図々しくと心がけている。
	小学校5年普通学級	広汎性発達障害	TOKOと出会い普通学級へ。コミュニケーションの障害だが、他の子の見様見真似で、読み書きや会話も。KYなのでからかわれ、親は説明に悩むが、本人はからかわれてもなんでも皆と一緒にいたいという気持が強い。
	小学校5年特別支援学級	広汎性発達障害	中学校の支援学級の先生に不安を感じている。

	小学校 5年 普通学級	ダウン症	言葉は出ないが、目で訴えるだけで友達に伝わる。加配や支援の先生は一切付いていない。体験を伝えたいとTOKOの会に関わっている。
10歳	小学校 5年 普通学級	下肢マヒ・車いす使用	初めは付き添ったが2年の途中から支援員。親は校外学習のみ付添い。中学校に向け悩んでいる。
11歳	小学校 5年 普通学級	軽度のダウン症	みんなと同じペースでできないところを友達がフォローしてくれる。今は問題ないが、中学、高校など将来のことが悩み。
13歳	中学校 2年 普通学級	車椅子使用	できれば普通の高校に進学したい。先輩の話を聞きたい。
	中学校 3年 普通学級	自閉症	高校のことで悩んでいる。高等養護学校も見学したが、本人はどこまで理解しているか。お母さんが言ったところに行くという感じなので。

この悩みと体験を自分だけで抱え込むのは「資源」のムダです→ 市町や県の教育委員会と話し合しましょう！—18日・春日部市と

TOKO号外でお知らせしたとおり、10月30日の就学相談会には、14組の新相談者が見えました。うち、これから就学を迎える上での悩みが6組、在学中の悩みは5組、普通の高校に行きたいが、現状はどうなのだろうという相談も3組ありました。(上記のファイルには、相談の方のほか、当日参加したTOKOメンバーで、義務教育在学中の方の発言も入っています。)

TOKOでは、他地域の会なども連絡を取り、市や県の教育委員会とこれまでずっと話し合いを重ねてきています。その中で、教育委員会担当者も本来は共に学ぶ教育をめざすべきだということを認めています。

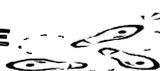
ただ、国が分ける教育を法令で定めていること、教育条件の整備が遅れていること、親の希望があることから、現状では時期尚早と答えているのです。しかし、分ける教育のための就学指導を定めた学校教育法施行令は、法律ではなく省令です。東松山市のように、自治体の判断で共に学ぶための条例をつくれるし、条件整備も特別支援学校のような予算はかかりません。最後の、親の希望については、希望しない親もいるのだということを、公けに認めさせてゆくことが大切です。そして、共に学ぶための支援とは何か、十分に理解してもらいましょう。

少なくとも、分ける教育制度が原因となる悩みだけは、なくしていきましょう。その上で悩むのは、大いに大切なことです。高校の問題は、どの子も地域の公立高校へ埼玉連絡会として取り組んでゆきます。

まずトップをきって、春日部市教育委員会との話し合いの日程が決まりました。他市町の方でもどうぞ。

1月18日(月)10:00～ 春日部市教育センター2階 春日部市粕壁東3-2-15. 048-763-2443

春日部駅東口より市民文化会館方面へ徒歩約10分、粕壁小学校の隣の建物

 TOKO 2009年  ふみあと 

- 1月 TOKOアンケート TOKO152号とともに読者アンケート送付。回答は153～4号に載せました。
- 2月 あゆみ幼稚園鈴木園長先生講演会 統合教育の草分け。園での講演会にはかつての教え子も多数。
- 3月 子ども★夢★未来フェスティバル 共に学び・育つ駅伝トークを他団体と共同で開催しました。
- 5月 TOKO野外おしゃべり会 内牧パーベキュー広場で60数人。宮代町の報告を受け。生活の話も。
- 7月 どの子も地域の学校へ・高校へ埼玉交流集会 多彩な顔ぶれが集まった県レベルの集会。
- 8月 共に学び・共に働き・共に暮らす埼玉へ総合県交渉 県の教育、労働、福祉等の担当者に現場から。わらじの会交流合宿 毎年100人近く参加。二泊三日、夜以外小グループ行動。今度はあなたも。
- 10月 わらじ大バザーにブース せんげん台東口の公園での野外バザー。一角に毎年相談・交流ブース。
TOKO就学相談会 越谷、草加、杉戸、春日部、さいたま等から相談者が14組。
- 12月 TOKOおしゃべり会 就学相談会参加の方々に連絡が十分取れず、先輩の親たちのおしゃべり会に。
わらじの会みんな一緒にクリスマス 就学相談会参加者含め、初参加の親子が例年より多数。
(TOKO単独行事はゴシック体。わらじの会全体や他団体と共同行事は明朝体にしました。)

共に学び・共に生きることの大切さを実感 分けられた場も経験してわかったこと

越谷市 原田 真弓



……でも、1人だったら私なんか絶対に1人で立ち向かっていく事はできなかったから、普通学級には入れなかったかもしれない。入る事自体できなかったかもしれないけど、やっぱり話し合いの場があって、教えてくれる仲間がいて、こういうのってとてもありがたかったなと思います。

越谷市在住の原田です。息子は今19歳になりまして、今年越谷西養護学校の高等部を卒業して現在はサイゼリヤの厨房の中で働いています。もう半年働いています。と言うと、とってもボーダーとかできる子なのね、おとなしくてしっかりした子なのね、と思われがちなんですけど、うちは小さい時本当に大変な子で、よくここまで落ち着いたなっていうくらいの本当に大変な子でした。こういうところに連れてきたら絶対中には入れなくてどっかに飛び出していき、奇声をあげて大騒ぎをする、そういう本当に大変な子育てを体験してきました。

おしゃべり会との出会い

1歳半健診で引っかかって、それからどうかなどうかなっていう時期を何ヶ月か過ごしまして、越谷のみのり学園という通所の幼稚園みたいなところに5ヶ月間だけ通っていました。そこが決まった時に普通の幼稚園の募集も重なってしまっていて、入れたいなと思いつつ普通の幼稚園の方にもお願いしたら園長先生がどうぞという事で、幼稚園の手続きもして、みのり学園に入りました。みのり学園の方には、幼稚園に入るの5ヶ月間だけお願いしますという事を言うと、ちょっとひんしゅくを買いました。その後普通の幼稚園に年中、年長と2年間お世話になりました。

で、みのり学園に行っていた時にこのTOKOの会…その頃まだTOKOじゃなくて、おしゃべり会というのをわらじの会の人やがやっています、そこに参加をしてそこでいろいろ知恵をつけていただきました。あの頃のおしゃべり会っていうのは、狭い6畳くらいの部屋でひしめき合うようにしてみんなで集まって、それでおしゃべりをしていたのね。それで私なんか学校に、なんて言い返していいかわからないという時に、今こういう風に困ってるんだけど、と言うと、そういう時はこうやって言うのよとか、こういう風に持っていくのよってみんなに知恵を付けてもらえたからやりやすかった。でも、1人だったら私なんか絶対に1人で立ち向かっていく事はできなかったから、普通学級には入れなかったかもしれない。入る事自体できなかったかもしれないけど、やっぱり話し合いの場があって、教えてくれる仲間がいて、こういうのってとてもありがたかったなと思います。なかなか1人じゃ戦っていけないから。これから学校でいろいろ大変だと思うけど、話せる仲間を作っておく事、話せる場に出て行く事が大事なかなと思いますね。

就学相談というのは受ける義務はないんだよ、受けなくてもいいんだよという事を教わり、うちはこの資料の中にもある就学基準を読みますと、絶対うちは養護学校“適”だったと思うんですね。私は、今はだいぶ慣らされて図太くなったのでいろいろ発言もできるんですが、その頃はちょっとつかれるとぐらぐら揺れてしまいそうな、本当に自分の意見を言うのが苦手でした。なので、就学相談とか行くと、養護学校に行きなさいとか勧められると断れない自分があるので、ちょっと怖くて遠慮しました。そのおしゃべり会の方でもそんなの行かなくていいんだよっていうのを聞いたので、一切就学相談は行きま

せんでした。

就学时健診を受けずに

でも幼稚園の方には、小学校の校長先生や教頭先生からぜひ一度子供を見せに来てくださいと言われていたそうですが、なんで見せに行かなくやいけないのかという反発心もありました。学校の方とは一切コンタクトを取らず、就学时健診を受けず、学校の方から「就学时健診を受けませんでしたよね」というお電話をいただいた時に初めて、「受ける義務はないので受けませんでした。ただ、そちらの学校には通わせますのでよろしくお願ひします。」と言ったら、「はい、わかりました。」と、それだけでした。入る前はそれだけ。教育委員会からは一切何も連絡はなく、その電話一本で終わりました。一日入学はちゃんと行きましたけど、事前に学校側と話をすることは一切しませんでした。

小学校は2つ上にお兄ちゃんがいるので、お兄ちゃんと一緒に通わせたいと思いました。学区の小学校には特学がなかったのですが、ちょうどいいかなと普通学級にポンッと入れました。なので、学校側もおたおたしていたんだと思いますが、校長がちょうど変わったので、全く何も引き継ぎをされていない校長になりまして、担任の先生も蓋を開けたらうちの子がいたという状況だったようです。ただ1、2年の担任だった先生が私にとってはとてもいい先生でした。担任の先生とも最初はこういう子ですという説明もできず、話もできず、何ヶ月か過ぎてからやっと、実は障害があつて…とお話をしたくらいで、本当に今振り返ると無責任だったのかなと思います。でもとってもいい先生で、校長からたぶん付き添ってもらいなさいとか、こういう事は親にやってもらいなさいという話が多々担任の方にあつたようなんですが、それが一切私の耳には入ってこずに担任止まりでした。担任の先生がいろいろ考えて子供の事を面倒見てくれました。30何人いるクラスの一員だったので、やっぱり手は足りなかったと思います。でも、その辺は先生は子供達をうまく使っていたようです。

クラス全員で探しに行く

学校に行っても教室にいられないので、いなくなる。いなくなるとクラス全員で探しに行く。で、足りないと校長や教頭も駆り出して探してくれる。という事で、うまくいろんな人を使ってやってくれていたようです。私も担任の先生には「付き添いは一切しませんのでよろしくお願ひします。」と一言だけ言いました。そしたら、本当に一切付き添いという事は言われずに過ごせました。

小学校1年生の最初の授業参観に行った時に息子がいないんですね。席になくて、どこに行っちゃったのかしらと見たら、机と机の間、いわゆる通路に寝そべっていました。そんな子です。でも、小学校2年生になった時には座ってられる時間がだいぶ長くなってきました。ただ、勉強はほとんどできないので、1時間ずっとわからないで過ごしているのも辛いのかななんて気にはなっていたんですが、担任の先生はできる事はさせて、無理強いはせず、でも特別な事はせずやってくれました。他の子もうるさいけどほっといてもいいかな、でも手伝うところは手伝ってあげようかな、という感じでした。本当にクラスの子達がまとまって助けてくれたという状況ですかね。

3年生ではあまり先生に恵まれませんでした。4年生は まあまあ。5、6年生の担任の先生には恵まれて、その先生は息子の担任をしたいと手を挙げてくれた先生でした。5、6年と、体が大きくなってきて大変な時期を何ができるか模索しながらいろいろやってくれました。1、2年と5、6年の先生で共通してよかったのは、うちの子はこんな事に興味が出てきたのでやらせてみたいんですけど、と言うと、じゃあ学校ではこういう風にしますから、おうちでも同じように教えていきましょう。という事で、学校と家と同じような教え方を心がけました。

特殊学級、養護学校の体験

それで、小学校から中学校に上がる時に、やはりそのまま普通の中学に上げようと思っていました。

ただ、いろんな情報があって、他の小学校から上がってくる人でとんでもないいじめっ子の軍団がいて、ターゲットにされたらどうしようという問題があり、そこでちょっと考えました。出した結論は学区外の特例支援学級。中学校は片道40分歩いて登校しました。小学校の時から登校は1人でしていました。それも小学校1年生の時にすれ違い事件というのが二度程ありました。送り迎えをしていたんですが、一本道が違ったようですれ違って大騒ぎした事が2度ありました。それで手押しの信号を押して渡ってこられる、信号のない道路も渡ってこられる、一人で往復できる、という事が親にもわかって、それから1人で通学しています。中学に入った時も片道40分なので最初は送り迎えをしていましたが、何週間か経って、親が大丈夫だなという判断をしてからは一人で通学をしました。

やっぱり特別支援学級に入ると、その子達はほとんどが養護学校に行くので、本人が中学を卒業したら養護学校だという意識になっていたような気がします。小学校普通学級はとてもよかったんですが、やはり本人なりに無理をしていたところもあって、クラスの中で一番できない子なので、中学で特別支援学級に入った時は本人も最初はすごく戸惑ってはいましたが、一番できない子からできる事が結構増えたというところではほっとしていた、というようなところが親にも息子にもありました。他の子達と一緒に中学卒業後は越谷西養護学校の高等部に入りまして、3年間そこで過ごしました。

地域でつながってゆくことの意味

養護学校は手厚くて本当にいいところだと思う方がいるんですが、中に入ってみると結構そうではなくて、なんだか養護学校の先生もこんな感じ？というのが多々ありました。だから普通学級、特別支援学級、養護学校のどこがいいか、というところではなく、やっぱり親の考え方とか、親と子が先生方や学校と合っているかという部分なのかなと思いました。

ただ、やっぱり学校生活というのは短くて、その後の生活の方がずっと長いので、うちも普通学級で一緒だったお友達が街ですれ違うと「おお、たかお一。」なんて声をかけてくれたりとか、その頃一緒だったお母さんとすれ違うと「たかお君、駅で会ったわよ〜。」とか、いろいろ話をしてくれるので、やっぱり地域で知っている人がたくさんいるというのは、学区の小学校に入った強みなのかなと、とてもありがたく思っています。

小学校の普通学級に入って、私としてはとってもよかったと思っています。通園施設、普通の幼稚園、普通学級、特別支援学級、特別支援学校と全部経験してきました。やっぱり地域で普通の学校に、というのがとてもよかった。学校を卒業してからの人生の方が長いので、養護学校にずっと行っていると、地域と本当に離れて暮らしちゃうので、周りの人もそういう障害を持っている子どもが近くにいる事を知らなかったり、知っていてもどんな子どもか知らなかったり、本当に地域とのつながりが断たれてしまうので、やっぱり地域とつながっていくのをお考えすると普通学級に行くと、地域の人に知ってもらおうというのはとてもいいんじゃないかなと思います。

普通学級 いいことばかりじゃないけど

普通学級に行く親もしんどいところがあるので、いいことばかりではありません。子供がいじめられる事もあり、後ろ指を指される事もあり、陰口を言われる事もあり、結構たくさん大変な事もありました。けど、終わって振り返ってみて、嫌な事ばかりが前面に出ているわけではなく割と楽しかった事しか残っていないので、とてもよかったんじゃないかと思えます。子供本人もいじめられる事もありましたが、いじめられてどう対処したら有効かという知識をいろいろ身に付けますね。昔はちょっとからかわれただけで泣きました。ものすごい声で泣きました。だから先生からは「泣くから何かされるのがわかってよかった。」って言われました。中にはおとなしくてつねられたり嘔まれたりしてもぐっと耐える子もいたんですけど、そういうお子さんはいじめられても先生にはわからないですね。だから、

その子と同じ学年だったのでよく比べられて、おとなしい子よりはたかお君みたいな子の方がわかりやすくていいですって言われました。ただ、お友達が間違っただけだとしてだめだとして止めたのに、それが嫌だから大泣きしていじめてるって、かんちがいされた事もありますね。でも、本当に小学校は楽しかったですね。

1学年の半分くらいは同じ幼稚園から入ってるので、仲間が多かったんですね。だから息子の事をわかっていてくれる子が多かったです。幼稚園の時は取っ組み合いのけんかをしてた子が、小学校に入ったら、今度は相手の子が成長しているんですよ。ちょっとお兄さんになっているので、今度は取っ組み合いじゃなく手助けをしてくれる子に変わっていたりとか。

養護学校高等部の時に、近くの高校の吹奏楽部が来て演奏をしてくれました。そしたら吹奏楽部に小学校の時に同じクラスだった子がいたらしくて、「久しぶりだよね～覚えてる？」と声をかけていたみたいです。先生は最初うちの子が何か言われてるんだと思ったようですが、よくよく聞いてみたら知り合いなんですって言うていたって。そういうのっていいですね。やっぱり親としてはとっても嬉しくて、よかったなと思いましたね。逆に言えば、養護学校の先生がそうして驚いたという事は普段それだけ子供達にとって知り合いがないと言う事の裏返しですよ。

障害児ばかりの世界のおかしさ

養護学校ってやっぱり障害児ばかりの世界で、先生もそういう養護学校をずっと経験してきている先生だと、養護学校ってこういうところでも四角四面がちり固まっていてその枠から出られないんですよ。

つい最近養護学校高等部のお母さんから聞いた話では、自閉の子なんですけれども、耳から聞いた言葉が入らないから、写真とかカードとかで、この先何をするかっていうのをきちんと見せてあげると子供が次は何をするんだとか、1日こういう流れで過ごせるんだとかというのがわかるから、そういう風にしてあげませんかと言ったら、卒業した後施設ではそういう事はしてくれないから学校ではしませんってきっぱり言われたんですって。だけど、お母さんからしてみれば施設がないからじゃなくて、その子が生活していく上で便利なものは取り入れてほしいという思いで言ったのに、きっぱりしめんと断られて…だからちょっと考え方が違うんじゃないかなって思います。

うちの子は今サイゼリヤに行っているんですが、障害者雇用で入ったんですけど、実習に行った時にまずは手を洗うんですね。で、外食産業なんで手洗いは重要なんですけど、石鹸をつけてよく手を洗って、爪磨きで爪の間もやってと、手洗いの順番があるんです。洗面所には、順番通りに写真が貼ってあるんですよ。

でもそれはうちの子のためにとか障害者のために貼ってあるんじゃないで、いろんな人がパートとかアルバイトで入るじゃないですか。そういう人がぱっと見てわかるように貼ってあるんですね。だから別に障害者のためっていうのではなくて、目で見てわかるものってわかりやすいじゃないですか。めんどくさかったら、「あの写真の通りに手を洗ってね。」で済むじゃないですか。自閉症の子はそういうのが貼ってあるとやりやすいから、うちの子達みたいなものにもわかりやすいし、だからそういうのって便利ならどんどんとり入れてもいいのかなって思うんですけど、やっぱり頭が固い。

現在息子は働いてはいますが、一桁の足し算ができるかなというくらいです。デジタルの時計は読めますが、あと10分経ったらとか、1時間後にとか、そういうのはわかりません。漢字も毎日小学校2年生の本を音読で読ませているんですが、結構たどたどしいです。中1からずっと音読はやっていて、親は続けるとすらすら読めるようになるのかなと期待していたんですが、未だにすらすらは読めません。でも、働いています。

(10月30日のTOKO就学相談会での発言記録をまとめました。)

埼玉県教育委員長 松居和様
埼玉県教育長 島村和男様



県立高等学校の後期再編整備計画（案）に対する意見

どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会
代表・斉藤尚子
埼玉障害者市民ネットワーク
代表・野島久美子

日頃より埼玉の教育のためにご尽力いただきありがとうございます。

私たち「どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会」、「埼玉障害者市民ネットワーク」は、障害のある人もない人も共に生きることをめざし、そのためには小学校、中学校、さらに高校においても障害のある生徒もない生徒と一緒に学ぶことがたいせつであるとして、1987年秋から埼玉県教育局との話し合いを積み重ねてきました。その話し合いにおいて、どのような障害があっても、またどんなに重い障害があっても高校で受け入れられるよう要望し続けてきました。徐々にではあれ高校への受け入れが進んできているところですが、未だに障害の重い生徒の受け入れについて理解が得られない状況があります。

私たちは、**障害のある子(人)に限らず、高校教育を受けたい子(人)、必要とする子(人)は「どの子ども」(だれでも)公立高校で受けとめていくべきであるという考え**に立って、運動を続けてきました。子どもたちはだれでも将来の社会の担い手です。入試の得点が低かったとしても、学力が足りないとして選抜で落とすのではなく、学力のある子ども以上に教育を受ける機会を与えられるべきであり、公立高校がその受け皿の役割を果たすべきであると考えているからです。

この度発表された「県立高等学校の後期再編整備計画」に基づく高校の統廃合は、公立高校が果たすべき役割を放棄し、高校への門戸を狭くして子どもたちを切り捨てていくものです。埼玉における高校教育の行く末が案じられてなりません。地元の高校がなくなったり、自分たちが卒業した高校がなくなったりすることは、単にさびしいといった思いにとどまらず、将来を担う若者たちに教育がきちんと保障されないことを意味しています。**進学がむずかしかったり、中途退学するような生徒は最初から高校に入れない方がいいといった考え方があるようですが、学習面で遅れているとか、生徒指導上の問題があるとかいった、そのような生徒こそ最も教育されていかなければならないのではないのでしょうか。**現在さまざまな犯罪や社会問題が起こっていますが、それらがさらに増長していくのではないのでしょうか。

先日新聞報道されましたが、昨今の経済状況の中で家庭経済も切迫して、公立高校ならなんとか行けるといふ生徒も少なくありません。家庭経済がきびしいと私立高校の学費を払うのはむずかしく、全体の生徒数が減ってきていても、公立高校を受験する生徒はふえていると言われています。高い交通費を払って遠くの高校へ通うのではなく、地元や近くの高校へ通えることが家庭経済を助けることにもなります。また、家庭経済がきびしいと、働きながら定時制に通う生徒も増えるはずですが。職場に近い所に高校があることで、働くことと学ぶことの両立ができます。**統廃合により、単に高校の数が減るだけでなく、職場と高校が離れてしまうこともあります。家庭経済のきびしい生徒はこのように学ぶ機会も奪われ、安い労働力として働かされ、ますます経済格差も大きくなっていくこととなります。**

また、私たちは、障害のある生徒も高校で学べるように、はたらきかけてきましたが、現在の選抜制度は「**障害があることにより不利益な取り扱いをすることのないよう**」と言いながら、得点で選抜することにより、知的な障害や重い障害のある生徒にとっては不利益となっています。統廃合により、高校の門戸が狭くなると、ますますその不利益性が増すこととなります。これまで少なくとも定員内では受け入れるよう訴えてきましたが、定員割れする高校もほとんどなくなる状況です。高校の統廃合により、障害のある生徒を排除することになります。

国や県の財政がきびしいからと言って将来の社会を担う若者の教育の機会を保障することを怠っては、ますます社会は逼迫したものになっていきます。今こそ、希望するどの子ども受けとめる姿勢を示すべき時であると考えます。今回の高校の統廃合について再検討していただきますよう、どうぞどうぞよろしく願いいたします。

クラスメートが渉君との遊びを人権作文に

この記事は、秋の号外に載せましたが、読んでない方も多数おられると思われるので、再録しました。



わらじの会 TOKO 御中

こんにちは。いつも大変お世話になっております。松本渉(わたる)の母です。長かった夏休みも終わり、二学期がはじまりました。

市内の小中学校の中には、新型インフルエンザによって学級閉鎖をしているところもあるそうなのですが、平方小は今のところ大丈夫なようで、今日も元気に学校へ行っています。

じつは、渉のお友達が、『人権作文』で渉のことを書いて、その作文が最優秀に選ばれて表彰されることになったそうです。

今日、先生にコピーをいただいて読みましたが、とても子どもらしい良い作文でした。

いずれ作文集で配られるそうですが、みなさんにも是非読んでいただきたいと思い、メールいたしました。

渉の学校での様子が目に浮かびました。渉が毎日の休み時間をとても楽しみにしているわけよくわかります。この作文を書いたお友達は、渉と仲良くしてくれている分 余計に迷惑をかけてしまうことが多いのですが、(習字の墨をつけられたり、叩かれたり)それにもめげず(?)優しく接してくれているのがとても嬉しく思います。

また、今年の担任の先生は、とても渉のことを観察してくれていて、今まで親も気が付かなかった渉の成長を知ることができました。

また機会がありましたら、近況を報告したいと思います。

松本みゆき



しょうがいを持つ子と遊んで

四年一組 荒井柚月



わたしには、四年間ずっと同じクラスの男の子がいます。その子は、ダウンしょうというしょうがいがあります。でも、とても明るくて、クラスの友達をいつも笑わせてくれる楽しい男の子です。

四年生になってからわたしは、その男の子とよく遊ぶようになりました。二十分休みや昼休みなどに、色々な遊びをします。その中でもよくかくれんぼをします。わたしもう一人の友達がおにになり男の子がかくれる事になりました。そして男の子は校庭の近くの水道のうらにかくれていました。

わたし達は、「もういいかい。」と聞くと、「もういいよ。」と言ったから、わたし達は水道のうらに向かいました。そしてわたし達は、「ここにいるでしょ。」と言ったら、「いないよ。」と言われたからわたしは、心の中でこう思いました。「ぜったいここにいる。」と思いました。そして水道のうらをのぞいてみたらそこに男の子がかかれていました。

その次に、おにごっこをして遊びました。ジャンケンでおにを決めました。男の子がおにになり、わたしは思いつき走って、もう一人の友達も思いつき走りました。男の子はとても一生けん命走っていたので、ちょっとつかまってもいいかなと思いました。もう一人の友達もすぐつかまっちゃいました。

その次に遊具で遊びました。すべり台のきょう走をして、わたしが一位で男の子は三位でした。もう一人の友達は、二位で大よろこびでした。「やったーやったー。」と言いながら次の遊びを考えました。

紙飛行機で遊びました。男の子は、紙飛行機を見つけるとすぐなげます。そして図書室に行くと、お気に入りの本を必ず読みます。

プールで遊んだ時は、泳ぎ方が上手でした。色々な泳ぎを見せてくれて、特にバタ足が上手でした。わたしが、「上手だね。」と言ったら、「すごいね ぼく。」と言っていました。

ボールで遊んだ時は、男の子のボールの強さがとてもはく力があってこわかったけど、ボールなげは、とても楽しかったです。男の子は、バスケットゴールにボールを入れると、とてもよろこんでいてかわいいです。男の子と遊んでいると、わたしも元気がでます。

授業中は、同じ勉強はできないので、足し算やひき算、ひらがなや言葉の勉強をしています。自分のできることを一生けん命やっているすがたを見るとわたしも負けずにがんばろうと思います。しょうがいのある子といっしょにすごすことは、特別なことではないと思います。同じことはできなくても、いっしょにすごすことは、とても大事なことだと思います。いっしょに遊んだり、いろいろ話したり、いっしょに笑ったりすることがその男の子にもわたしたちにもとても大切な時間です。これからも仲よくしようね。

先生からの連絡帳より (6月11日)

この一ヶ月で、成長したなと思うことが増えてきました。授業中はだいたい長い間、すわっていて、最後まで何かしらの活動を行うことができるようになってきました。

声を長い間出してしまった時も「シーっだよ」と言うと静かになったり、給食当番の子といっしょに、牛乳を1つずつみんなの机に上手に置いていたり、1対1対応のことは上手にできるようになりました。朝も自分で教室まで来て、仕度をしたり、片付けたり。また昼休み一緒に楽しそうにドッチボールに参加して、あったり、あてたり、友達ととけこみ、皆と一緒に行動できることも増えました。友達とハッピーバースディの歌を元気に歌ったり、教育実習の先生のお別れ会では涙を流したり、喜び哀しみ、などの感情も豊かになったように感じます。



障害ある子の就学考える

越谷で30日 福祉団体が相談会

「障害がある子どもを地域の普通学級に行かせたい」と考える保護者らを対象にした就学相談会が30日、越谷市恩間の北部市民会館で開催される。来春の就学に向けた市町村教委の判断前にと、市民福祉団体が計画した。

計画したのは、同市や春日部市などで活動する「わらじの会」と「どの子ども地域の学校へ！公立高校へ！東部地区懇談会（TOKO）」。同じような立場の親ら関係者が体験報告やグループ相談、個別相談に応じ、希望がかなうように解決方法を考える。

TOKOなどによると、障害のある子どもの就学は、健康診断を経て、市町村教委の就学指導委員会が審議する。地域の普通学級を希望しても特別支援学校などを勧められる場合もあるという。

一方で、同会事務局の山下浩志さんが県教育局の資料を分析したところ、この数年、

委員会の判断対象の障害児は4千〜5千人と増える傾向にあるが、07、08年は約3千人が普通学級に進んでいるという。東松山市教委のように、就学指導委を廃止して、本人や保護者の希望に添うところもある。

山下さんは「昨年の相談者で普通学級に通っている子どももいる。在学中の子どもや高校進学の問題についても助言したい」としている。

相談会は午前10時から。全県から参加可能。資料代500円と昼食が必要。問い合わせは白倉さん（電話・ファクス048・752・7351）へ。

明日新聞

2009年10月28日

(埼玉東部)



春の芽吹きを待つために いま地域という土を耕しておこう！

地域交流もちつき大会 1月9日（土）

11:00～15:00 くらしセンター・べしみ 参加費：無料

毎年、地元越谷市恩間新田の方々にご協力いただきながら開催しているもちつき大会。どなたもどうぞ！

連絡先：身体障害者通所授産施設・くらしセンターべしみ 048-975-8511

市民福祉講座「インフルエンザのほんとの話」

お話：母里啓子さん（元・国立公衆衛生院疫学部感染症室室長）

厚労省や医師、マスコミなどの報道は、どこまで信用してよいのか。新型騒動が一段落した今、もう一度考えましょう。

●日時：2010年1月17日（日曜日）13時～15時30分（12時30分から受付） ●場所：健康福祉センター・ゆっく武里 2F 東武伊勢崎線せんげん台駅西口または武里駅西口よりバス3分団地センター下車1分（埼玉県春日部市大枝89、7街区、TEL：048-737-5550） ●会費500円（資料代）

●主催・お問い合わせ：わらじの会 15日までにご連絡ください。 TEL：048-737-1489、FAX：048-736-7192（黄色い部屋）、E-mail：waraji@muf.biglobe.ne.jp（埼玉県春日部市大場690-3）

第8回新春着物リサイクル市

一般古着・模擬店も出るよ！

1月30日（土）春日部市旧谷中小学校体育館で

自前の障害者雇用事業所ぶあくと地域デイケア施設パタパタの共催行事

連絡先・パタパタ 048-733-2743 ぶあく 048-738-0643



メモ わらじの会とTOKO: わらじの会は入退会などなく「来た時が会員」というゆるやかでひらかれた集まりです。TOKOはその活動の中で生まれました。今回の原田さんの文章でおわりの通りです。就学相談会の告知について朝日新聞にはたいへんお世話になりましたが、当方の説明不足で、両者の関係について、上記の記事ではちょっとわかりにくくなってしまいました。すみません。なお、ご希望の方には「月刊わらじ」（B5版30ページ）をお送りします。新年号（お年玉つき）特集は「ねんがまんが」です。おもしろいよ！